

平成 21 年 10 月 21 日

いわき市食育推進委員会  
第 2 回会議 議事録

## いわき市食育推進委員会第2回会議 議事録

1 開催日時： 平成21年10月21日（水）14：00 ～ 14：50

2 開催場所： いわき文化センター 4階 大会議室

3 議事案件及び発言内容等：

(1) 開 会

(2) 議 事

### ① 食育関連事務事業の評価について

委 員 長	はじめに、「食育関連事務事業の評価について」事務局より説明をお願いします。
事 務 局	(資料に基づき説明)
委 員 長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委 員 A	評価対象事務事業(案)の中に「地産地消の取組みと郷土料理の給食実施」があるが、この事務で実施する献立は『郷土料理』だけを対象としているのか。
事 務 局	当該事務事業は、学校給食を担当する教育委員会(保健体育課)において教育現場での食育全体計画に基づき、地産地消の取組みと合わせ行われている事務事業であるが、郷土料理のみに限定しているものではなく、地元食材や旬の野菜などを利用した伝統食や行事食なども含まれる。
委 員 B	三和地区で郷土料理というと、はっきりしたものはない。 3年前に地元新聞社から、郷土食や伝統食の紹介について取材依頼があり一度お断りしたが、「食ごよみ」ではどうかと提案されたため、これを引き受け1年間連載した。 「食ごよみ」では、旬の野菜や山菜、乾物などを利用した様々な料理を紹介することができた。

② 食育に関するアンケート調査の実施について

委員長	続いて、「食育に関するアンケート調査の実施について」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委員長	市食育推進計画の数値目標値のうち、「朝食を欠食する市民の割合」の年代（ライフステージ）について、国と異なる理由は何か。
事務局	昨年度の市食育推進計画策定時、本市の健康づくりに関する総合的な計画である「健康いわき21」における世代別目標との整合性を考慮したものである。

③ 平成 22 年度食育関連事務事業について

委員長	続いて、「平成 22 年度食育関連事務事業について」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
	(質問、意見等なし)

⑤ その他

ア 地域の特性を活かした食育モデル事業の展開例について

委員長	続いて、「地域の特性を活かした食育モデル事業の展開例について」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料に基づき説明。委員に対し食育モデル事業の立案や小委員会への参画などについて協力を依頼。)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。

委員 C	<p>食育モデル事業の展開例のうち「3 地場産品を活用した学校給食の提供」については、国においても重点を置き取り組んでいるところであるが、いわき市においては、自校炊飯方式を取っている地域では対応が可能であるが、安全性確保を優先し、大量の同一規格の食材を使用する共同調理場方式を取っている地域では、対応が困難なのが現状である。</p> <p>少量でもいいから、地場産品を共同調理場で使用できるようにすることが今後の検討課題と考える。</p>
事務局	<p>学校給食での地場産品の使用については、10月14日に開催した「第2回 いわき市食育庁内推進会議」においても生産者側を担当する農林水産部（農業振興課）及び学校給食を担当する教育委員会（保健体育課）から、委員Cの発言内容と同様の現状と課題が示されたところである。</p> <p>過去に市農林水産部（農業振興課）において、三和地区で地元食材を学校給食で使用するモデル事業を行った実績等があり、これらの検証を踏まえながら、今後、構築を進める食育モデル事業の中で、できるところから取り組んでまいりたいと考える。</p>
委員 C	<p>共同調理場の中でも、小名浜学校給食共同調理場においては、全児童・生徒分の食材量が揃わなくても、少量の地場産品を実際に使用しているので、食育モデル事業の構築にあたっては、こうした事例も参考にすればよいと考える。</p>
委員 B	<p>三和地区では、国・県・市の協力を得ながら、地元エコファーマー約50人が参加する「三和町ふれあい市場」を通して、旬の様々な野菜や、地元ならではの食材で好評を得ている「しみ大根」などの地場産品を学校給食に納入している。</p> <p>地場産品の納入にあたっては、事前に学校給食側から「何が提供できるか」との依頼に「〇〇だったら納入できる」といったやり取りにより行なわれている。</p> <p>三和地区においては、児童・生徒数が少なく、生産者（農家）が多いため、地場産品を学校給食へ提供することが可能となっていると考えている。</p>
委員長	<p>共同調理場があるがゆえに、学校給食での地場産品の使用が進まない理由は何か。</p>

委員 C	<p>共同調理場では、大量の給食を限られた時間内に調理することから、事前に機械で野菜をスライスするなどの加工を行なうが、そのためには大量の同一規格の食材が必要となり、地場産品だけでは集められないのが現状である。</p> <p>共同調理場で規格外の食材を加工できるようにしたり、地元生産者又は仲介者等が食材を加工して納入できるようになれば、学校給食での地場産品の使用も進むのではないかと考える。</p>
------	--

### イ 食育関連団体等のホームページアドレスについて

委員長	<p>続いて、「食育関連団体等のホームページアドレスについて」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明。委員に対し情報があれば随時事務局まで提供を依頼。)</p>
委員長	<p>事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。</p>
委員 D	<p>食育関連団体等のホームページアドレスなどの情報収集については、今後も継続して行なっていたきたい。</p>

### ウ 今後のスケジュール等について

事務局より、次の事項について確認・依頼した。

- 本年度の会議は、本日の第2回会議をもって終了となること。
- 来年度については、6月頃に第1回会議の開催を予定していること。
- 来年度の第1回会議開催までの取組みとして、任意参加となるが、地域の特性を活かした食育モデル事業の構築へ向けた小委員会への参画などについて協力を依頼するとともに、今後も引き続き行政及び民間団体等で行われる各種食育事業やイベントについて、随時、事務局から案内するので、参加・視察等の協力を依頼。

### (3) 閉会

以 上